

講師の八田純人(はった・すみと)さんの紹介

1973年生まれ。新潟大学大学院自然科学研究科修了。

現在、農民連（農民運動全国連合会）食品分析センター所長。同センターは、1996年に市民と農民の運動から生まれた、食品分析施設です。

2000年、中国産冷凍ほうれんそうから残留農薬を検出して発表。マスコミで大きく報道されました。

その他、漢方薬の残留農薬問題、遺伝子組み換えナタネ問題、「ディスカウント米はなぜ安い」問題、汚染米問題など、消費生活と農業に密着した視点で分析を続けています。

八田さんの講演は、参加者自身が分析機器を使うなどの「体験型」スタイルで評判を呼んでいます。現在、東京電力福島第一原発事故から、国民の生命・健康を守るため、食品に付着した放射性物質を精密に分析できる「放射性核種分析装置」の同センターへの導入のため、全力をあげています。著書に『遺伝子組み換えナタネ汚染』（共著、緑風出版）。

映画「はだしのゲン 第2部 涙の爆発」

上映時間 123分 中沢啓治原作の『中沢啓治選集』より、はだしのゲン第二部。

終戦後の広島を舞台にわんぱく少年ゲンと原爆孤児たちのバイタリティーあふれる行動を通して被爆の残酷さを浮き彫りにする。脚本・監督は「はだしのゲン」の山田典吾、撮影は小林節夫。

【ストーリー】

中岡ゲンは、原爆によって父大吉、姉英子、弟進次をうしなったが、被爆直後に母の君江は女の子を産んだ。友子と名づけた。ゲンは、友子に食べさせる米を探しに広島中を歩きまわった。やがて、ゲンにも原爆症の症状が現われ、頭の毛が抜け丸坊主になってしまった。ある日、ゲンは、隆太という原爆孤児と出会い、彼の仲間たちとも知り合った。ゲン一家は、林キヨの家に居候させてもらうが、姑ヨネのしうちに耐えられず、家を出た。そして、キヨから物置小屋を貸してもらい、そこで暮し始めた。しかし、その場所も、ヨネに家賃を催促され、ゲンは夢中で仕事を探した。



そして、ゲンは原爆で全身にヤケドを負った画家志望の青年・政二の世話をする仕事を見つけた。

政二を励ましながらのある日、二人で写生に出かけた。途中水をもらおうとした漁師の家で、原爆被爆者として軽べつされ、政二とゲンの怒りは爆発した。そして、ゲンは政二の全身の包帯をとり、リヤカーで町中ひっぱり歩いた。人人は恐れ、逃げまわった。やがて、政二は死に、君江はゲンといっしょにわが家の焼跡に小屋をつくる決心をした。そして、その焼跡に麦が芽を出した。

第42回くにたち秋の市民まつりに出店・展示します。

バザー用品(衣類・家庭用品など)の出品のご協力をお願いします。

表面の連絡先までお電話いただければお伺いいたします。